

小児科病棟における男性看護師の必要性と役割

—思春期の男児との面接を通して—

東病棟 3 階 ○中村里香 浦井由美子 河合陽子 荒木裕子
寺田麻子 松井愛美 三村あかね

Key word: 男性看護師 小児科病棟 思春期 男児

はじめに

厚生労働省によると、わが国の看護職就業者に占める男性看護師の割合は 2004 年度で約 4% となっており¹⁾、少数派ではあるが年々増加傾向にある。当小児科病棟においても昨年度より男性看護師が配属され、現在は 2 名の男性看護師が働いている。入院患児の保護者を対象とした前田らの研究では、保護者は男性看護師に対して「男児への精神的フォローや遊び、ケアへの関わり、父親・兄的な存在」を求めていることを明らかにしている。特に、思春期の患児への羞恥心を伴うケアや精神面での関わりは同性看護師が適している²⁾と述べられており、思春期の男児にとって男性看護師は効果的な役割を担っていると考えられる。

先行研究では成人患者や患児の保護者を対象としたものは多く見受けられるが、患児本人を対象とした調査は少ない。そこで今回、男性看護師と関わった経験のある思春期の男児の思いを実態調査し、男性看護師の必要性・役割を活かした看護実践への示唆を得たいと考えた。

I. 目的

男性看護師との関わりについて、思春期の男児の思いを把握し、男性看護師の必要性・役割を活かした看護実践への示唆を得る。

II. 研究方法

1. 調査方法

男性看護師との関わりについて研究者 2 名(面接者 1 名、筆記者 1 名)にて半構成的面接を行った。質問項目は先行研究を参考とし、1) 男性看護師から受けた援助、2) 男性看護師に初めて会った時の印象・イメージ、3) 男性看護師と女性看護師との違いについて、4) 男性看護師が必要だと思う場面について、5) 男性看護師に期待する援助・役割についての 5 項目とした。

2. 調査期間

2008 年 7 月～9 月

3. 調査対象

2007 年 4 月～2008 年 8 月迄に A 病棟に入院し、男性看護師と関わった経験のある思春期の男児(入院時 12～18 歳)。思春期の定義は、先行研究を参考とし 12～18 歳とする。

4. 分析方法

各質問項目で得られた意見を単純集計し、スーパーバイザーの意見を基に特徴をまとめ分析した。

5. 倫理的配慮

対象とその保護者には、金沢大学医学倫理委員会の承認を得た研究依頼書を用いて説明し、同意を得た。プライバシー保護のため面接は個室にて行った。

III. 結果

1. 対象の背景

男性看護師と関わった経験のある思春期の男児 8 名。入院時の年齢は 12～18 歳(平均年齢 14.9 歳)。入院期間は 5 日～10 ヶ月。血液疾患 4 名、心疾患 1 名、代謝疾患 1 名、自己免疫疾患 1 名、神経系疾患 1 名。

2. 男性看護師との関わりについて(表 1)

1) 男性看護師から受けた援助

「一緒に話をした」2 名、「ゲームをした」1 名、「膀胱留置カテーテル挿入の介助」1 名、「排泄介助」1 名、「分からない・覚えていない」3 名であった。話をした内容はゲームや遊び・スポーツなどの趣味についてであった。

2) 男性看護師に初めて会った時の印象・イメージ

「驚いた」5 名、「違和感はなかった」2 名、「珍しいと思った」1 名、「嬉しかった」1 名、「かっこいい」1 名であった。「驚いた」理由としては「看護師は女性のイメージがある」、「ドラマでは見るけど、実際見たことなかった」という意見があった。また「驚いたのもあるけど、かっこいい」と答えた男児は、「(看護師は)やっぱり女性しかいないから、(男性看護師に)

表1 男性看護師と関わった中での会話や児の思い(重複回答含む)

男性看護師から受けた援助について
<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろしゃべった。ゲームとか遊びのこととか。 ・ 卓球の話をしたのを覚えています。(以前、男性看護師も)卓球していたみたいで。
男性看護師に初めて会った時の印象・イメージ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて会ってびっくりした。女性看護師ばかりなので嬉しい気持ちはあった。 ・ 今まで考えていた女性のスタッフが一般的かなと思っていたから、男性の方が入ってきて、ちょっと驚いたのもあるけど、かっこいいなって。 ・ ドラマでは見るけど、実際見たことなかったし。 ・ (看護師は)やっぱり女性しかいないから、(男性看護師に)なりにくいなあと思っていたけど、男性が来てから夢がさらに深まった。
男性看護師と女性看護師との違いについて
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じかな。みんな変わらないです。 ・ やっぱ男同士っていうのもあるから、まあ、しゃべりやすいかなって感じはありましたね。 ・ 男の人の方が慣れているし気が楽。
男性看護師が必要だと思う場面について
<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性だけより男性がいた方がいいと思った。 ・ 男性には男性っていう、さらに大きい子だったら男性には男性の方がいいかなって思いますね。小さい男の子だったら女性の看護師さんでもいいと思いますけど。高校生や中学生くらいになると恥ずかしい面も出てくると思うので、男の看護師さんがいいと思います。 ・ まあ、話しやすいのもあるけど、排泄の面でもケアの面でも男の人がいいかなって。 ・ 趣味があうし、話しやすいし。 ・ 別に…男性の方がおおざっぱな面があるから。男性のイメージで。 ・ う～ん、やっぱこの年齢になると割と恥ずかしいじゃないですか。入院した時、腹痛で下痢がひどかった時に検便をしてくれって言われた時に、これ持って行って下さいって言うのは言いやすかったです。 ・ (清潔ケアや排泄介助は)男性の方がいいですね。見られたくないことやプライバシーもあるし。 ・ (清潔ケアや排泄介助において男性看護師は)いらないわけではない。もし初めての入院の人だったら、(女性看護師にされることに)あれって思うかもしれないけど、俺は何回もしているから大丈夫。 ・ (身体をみられることは)仕方ないことだし、小さい時からしているし、入院はそんなもんだなと思ってる。
男性看護師に期待する援助・役割について
<ul style="list-style-type: none"> ・ もっとしゃべりたいとはもちろん思います。もっと数が増えてくれたら嬉しいかなと思います。 ・ 色々聞いて欲しかった。何でもいいけど、病気じゃないこと。日常のこと。 ・ 入院していると、小さい子の横にはお母さんっていうイメージがあるんですよ。お父さんや兄弟の兄貴とかの面に代わってくれる男の人もいたらいいのかなと思いますね。

なりにくいなあと思っていたけど、男性が来てから夢がさらに深まった」と話していた。

3) 男性看護師と女性看護師との違いについて

「女性看護師と変わらない」5名、「男性看護師の方が話しやすい」2名、「分からない」1名であった。男性看護師の方が話しやすい理由は、「男同士っていうのもあるから」、「男の人の方が慣れているし気が楽」であった。

4) 男性看護師が必要だと思う場面について

(1) 現在、病棟の男性看護師の人数が2名であること

について尋ねたところ、「もっと増えて欲しい」4名、「分からない」3名、「増えなくてもよい」1名であった。「もっと増えて欲しい」理由としては、「趣味があうし、話しやすい」、「話しやすいのもあるし、排泄の面でもケアの面でも男の人がいいかな」という意見があった。「増えなくてもよい」と答えた理由は、「男性のイメージとしておおざっぱな面があるから」であった。

(2) 清潔ケア・排泄介助の場面で男性看護師が必要かを尋ねたところ、「必要」と答えた男児は4名、「病院

だから仕方ない・慣れている」2名、「男性でも女性でも排泄物をみられること自体が嫌」1名、「分からない」1名であった。「必要」と答えた理由としては、「高校生や中学生くらいになると恥ずかしい面も出てくると思う」、「見られたくないことやプライバシーもある」という意見がみられた。

5) 男性看護師に期待する援助・役割について

「特になし」4名、「もっと話をしたい」2名、「分からない」2名であり、話をしたい内容については「病気のことじゃないこと、日常のこと」という回答があった。また、「お父さんや兄貴に代わってくれる看護師もいたらいいかなと思いますね」という意見もみられた。

IV. 考察

思春期の男児に対する男性看護師の関わりについて、結果の傾向より考えられる援助を以下の4つに分類した。

1. 思春期における自我確立への援助

今回の調査の中で、男性看護師に対し「男同士っていうのもあるから」、「男の人の方が慣れているし気が楽」という理由から「話しやすい」という意見がみられ、関わりの中でゲームや遊び・スポーツといった趣味の話をしていることが分かった。小児科病棟の特徴として、患児の年齢層にばらつきがあるだけでなく、感染対策の理由から面会制限が決められているため、入院生活は家族や友人と離れ、話し相手の少ない環境になってしまっている。思春期は、特定の同性の友人と自分の好きな世界をもつ時期であり、このような関係が、自分自身と向き合い、価値観や自己像をつくるための重要な助けとなり、人格形成に重要な役割を果たしている³⁾といわれている。看護職者を対象とした研究においても、男性看護師は思春期の男児に対し「自我確立を促す役割」が求められることが明らかになっている⁴⁾。共通の話題が多い同性看護師との関わりにより、男児は自己について考える機会をもつことができると考えられ、自我確立を促す方法の一つとして、男性看護師が積極的に関わり、一緒に話をする時間をもつことが大切といえる。

2. 男性・大人としてのモデル、父・兄的役割

男性看護師に初めて会った時の思いについては、「驚いた」と答えた男児が多くみられたことより、「看護師は女性」という社会的固定観念が存在しているように

思われる。しかし、「驚いたのもあるけど、かつこいい」、「(看護師は)やっぱり女性しかいないから、(男性看護師に)なりにくいなあと思っていたけど、男性が来てから夢がさらに深まった」と関わりの中で男性看護師が憧れの対象になるなど、その存在を肯定的に捉えている意見があった。また男性看護師に期待する役割について、入院中の父・兄的役割の必要性を感じている児もいた。先行研究では、入院によって父親と接する機会が少なくなる理由から、男性看護師は思春期の男児にとって「男性としてのモデル」、「大人としてのモデル」として重要な役割があることが示されている⁵⁾。男児は男性看護師と関わることにより、「男性・大人としてのモデル」として社会性や自己の成長について学ぶことができ、また「父・兄的存在」とした心を許し頼れる存在を得ることができると考えられる。今後、男性看護師の定着と共に、これらの役割が発揮されることが期待される。

3. 羞恥心を伴う援助

女性看護師との違いについては「変わらない」との意見が多く、今回の調査では性別による看護の違いを感じている男児は少なかったが、男性看護師に対して「もっと増えて欲しい」と感じている男児が多く、特に羞恥心を伴う援助においてその必要性を感じている傾向にあった。井手らの研究によると、成人患者では患者の性別に関わらず、羞恥心を伴う援助は女性看護師を望む傾向にあることが示されている⁶⁾。しかし、思春期は羞恥心の芽生える時期にあり、今回の調査結果からも、清潔ケアや排泄介助において、男児は羞恥心を感じていることが分かった。思春期の男児に対する羞恥心を伴う援助においては、同性である男性看護師が関わられるよう配慮するなど、心理的負担を考慮したケアを提供していきたい。

4. 心理面のサポート

男性看護師に期待する援助・役割については、「もっと話をしたい」と、男性看護師との関わりを求める意見がみられた。思春期は、幼児期とならんで身体的・心理的变化の最もはげしい時期であり、身体的には二次性徴がみられ、心理的には自我が発達しはじめ、小児でもなく成人でもなくとても不安定な時期である⁷⁾。自我が発達する時期に入院し、自分の病気について悩み、さらに、自分の将来と重複させて真剣に考え大きなストレスになっている⁸⁾といわれており、男児にと

って、男性看護師は親や女性看護師には言いにくいことが話せる存在になると考えられる。今後、思春期の男児への対応として、男性看護師が関わりの中で得た男児の心の揺れや葛藤といった情報をスタッフ間で共有し、心理面へのアプローチを行っていきたいと考える。

今回の研究では、当院小児科における男性看護師と関わったことのある男児を対象としており、結果を一般化するには限界がある。また対象は思春期の男児であるため、異性である女性看護師では話すことに抵抗があったことも考えられる。今後は対象数を増やすとともに、男性看護師に対する男児の思いについて、異なる視点からもより深く調査を行い、小児科病棟における男性看護師の役割・必要性を明らかにすることが課題である。

V. 結論

思春期の男児は、羞恥心を伴う援助・精神面での関わりにおいて男性看護師を必要とする傾向にあった。また、思春期における自我確立への援助、男性・大人としてのモデル、父・兄的存在としての役割が期待されることが示唆された。

<引用文献>

- 1) 厚生労働省:平成 16 年保健・衛生行政業務報告(衛生行政報告例)結果(就業医療関係者)の概要,
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei/04/kekka1.html>, 2005
- 2) 前田貴彦他:入院中の患児への男性看護師の必要性とその役割認識に関する研究—入院中および入院経験のある子どもをもつ保護者への調査から—, 第 35 回日本看護学会論文集 小児看護, p. 50 - 52, 2004
- 3) 野間口千香穂:小児看護, 第 27 巻 5 号, p542, へるす出版, 2004 年
- 4) 前田貴彦他:小児看護における看護師の必要性に関する研究(第 2 報)—長期入院児とその親への看護に関する小児看護職者の意識—, 三重看護雑誌 Vol. 4(2), p 9 - 19, 2002
- 5) 石田徹他:児童・思春期精神科病棟における男性看護師の役割とその意義に関する研究—児童・思春期精神科病棟に従事している男性看護師の調査から—, 第 37 回日本看護学会論文集 小児看護, p 233 - 235, 2006
- 6) 井手彩他:一般病棟における男性看護師のイメージ

に関する調査, 共済医法, p52~55, 2002

- 7) 蒲原みどり:思春期とセクシュアリティ—小児病棟から—, 思春期学 Vol. 14 No. 2, p110, 1996
- 8) 前掲書 7) p111